

1 派遣期日 令和5年10月27日（金）

2 派遣先 学校名（会場名） 埼玉県久喜市立鷺宮東中学校
所在地 埼玉県久喜市八甫4丁目46番地
<https://www.kuki-city.ed.jp/washihigashi-j/>

3 研修内容

第41回関東ブロック中学校社会科教育研究大会 埼玉大会

大会主題 「よりよい社会の創り手を育てる社会科学習」

ー社会的な見方・考え方を働かせた深い学びの追究と、指導と評価の一体化ー

(1) 授業参観から

① 第1学年「中世の日本」 大名拓史先生

ア 単元を貫く学習問題

一般的に、鎌倉時代と室町時代を取り扱う際には、それぞれの時代を別々の単元として取り扱う。しかし、本単元では鎌倉時代から室町時代までの中世を一体的に取り扱い、「中世の日本」という大きなまとまりにした。そして、単元を貫く学習問題として、「中世の主役は誰なのか。～パワーバランスが見える化せよ～」という問いを設定した。単元学習を進める中で、この学習問題について生徒の考えがどのように移り変わるかを見取ることで、「知識・理解」だけでなく「思考力・判断力・表現力等」の評価も可能になる。達成度を評価するのが難しい「思考力・判断力・表現力等」の評価の仕方という点で参考になった。

イ 地域の歴史の教材化

鷺宮東中学校のある久喜市周辺は、戦国時代に小山氏が支配する地域だった。本時では、当時の小山氏の立場に立って学習問題について考えることで、強い大名たちに囲まれながらも知恵を絞って生き延びた当時の小大名の状況を理解することができた。自分たちの住んでいる地域を支配していた小山氏を取り上げたことで、生徒は自分たちの先祖が抱えた問題だと分かり、より自分事として切実に考えることができた。授業者が地域素材を教材化した点がすばらしく、その効果がよく表れていた。

ウ 二者択一型の学習課題

本時において、生徒は鷺宮の武士の立場になって、北朝と南朝のどちらにつくか選択をした。小山氏は北朝の足利尊氏から領地を与えられたので、北朝側の武士である。しかし、戦ったら勝ち目がない南朝側の北畠顕家が鷺宮に侵攻してくるため、生き延びるには南朝側に味方しなければならない状況に陥る。生徒は7つの班に分かれてどちら側につくか考えたところ、北朝側が3班、南朝側が4班とほぼ拮抗した。それぞれが理由を発表したが、どちら側の考えも筋が通っていて、納得できるものだった。このことから、当時の戦国大名が北朝と南朝のどちらにつくか迷い、北朝側にも南朝側にもこれといった決め手がなく、結果的に南北朝時代が60年余り続いたことを理解することができた。

エ 役割演技を取り入れた学習活動

各班で考えたことを全体で発表する際、各班の代表者は鷺宮の武士として殿様に意見を申し上げる形をとった。その際、殿様役の生徒は兜をかぶり、家来役の生徒は武士の格好をして行ったのが面白かった。このような活動があるので、生徒は学習を主体的且つ意欲的に進めることができた。

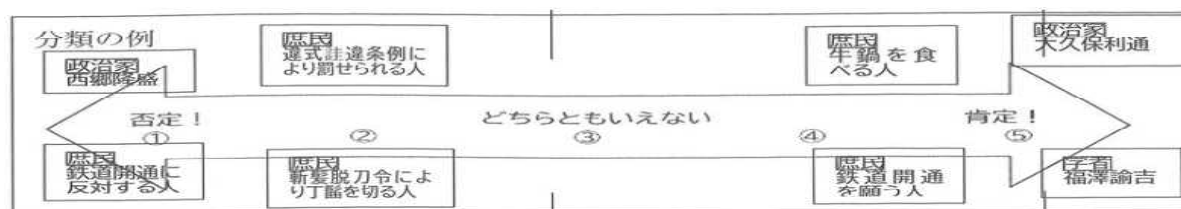
② 第2学年「近代の日本と世界（前半）」 丸山美穂先生

ア 多面的・多角的な見方や考え方ができる学習課題

本時の学習課題は「文明開化を当時の人々は、どのように捉えたのだろうか」である。文明開化に対する捉え方は、立場によって異なる。例えば、福沢諭吉のように西洋の学問を学んだ人々は文明開化を好意的に受け止めたが、西郷隆盛のように明治新政府の方針に反対していた人々は文明開化を否定的に受け止めたであろう。このように、立場によって見方や考え方が異なる学習課題を設定したことで、生徒が多面的・多角的な見方や考え方ができるように支援していた。

イ 立場による考え方の違いを「見える化」する

本時では、8つの資料を用意し、文明開化をどのように受け止めたか考えた。その際、下の図のような数直線チャートを活用することによって、それぞれの立場の人々が文明開化をどのように受け止めたか視覚的に分かるようにしていた。



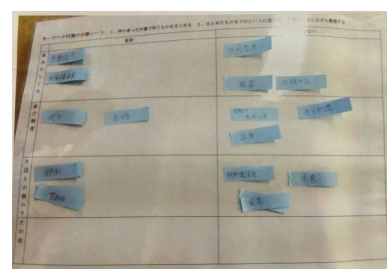
ウ 考えを共有するためのICTの活用

本時において、学習課題について考える場面では、班ごとに話し合って考えをタブレット端末に入力した。その後、タブレット端末の画面を送信し、クラス全員で共有していた。このことは自分たちの班と他の班の考えを比較するうえで、非常に効果的だった。また、当日欠席していた生徒がオンラインで授業に参加していた。何らかの事情で授業に出られない生徒には、日頃からオンラインで授業に参加する方法を利用していることがうかがえた。

(2) これまでの実践事例の掲示物から

① キーワード付箋の分類シート

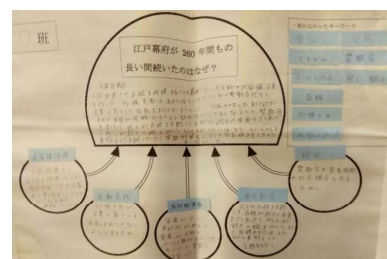
江戸時代の単元では、「江戸幕府が260年間もの長い間続いたのはなぜか」という学習問題を設定した。そして江戸幕府が行った政策を付箋紙に記入し、それらを「政治の仕組み」、「身分制度」、「外国との関わり」、「その他」に分類した。これによって江戸幕府が行った様々な政策を①大名に対する支配、②庶民に対する支配、③外国との関係の3つの側面から考えることができると同時に、諸政策の効果についても考えることができた。



キーワード付箋の分類シート

② 江戸幕府が長く続いた理由を5つに絞る活動

江戸幕府が約260年間もの長い間続いた理由はたくさん考えられるので、それらを比較・検討して、特に重要だと考えるものを5つに絞った。その際、前述の活動で使用した付箋紙を使い、グループごとに話し合っ、右のようなワークシートに考えを記入した。これによって「武家諸法度」、「参勤交代」、「朱印船貿易」などの歴史的事象と江戸幕府が長く続いた理由を関連付けて考えることができた。



江戸幕府が長く続いた5つの理由

4 感想

今回参観した2つの授業では、いずれも「AかBか」の価値判断を問う学習課題だった。AとBどちらの考えにも根拠があり、話し合い活動でそれらを発表し合うことで、多面的・多角的な見方や考え方を養っていた。この点が大変参考になったので、今後の自分自身の実践に生かしていきたい。

また、来年度は茨城県で関東ブロック中学校社会科教育研究大会が開催される。研究推進委員として、今回視察してきた情報を他の委員と共有していきたい。